

経営比較分析表

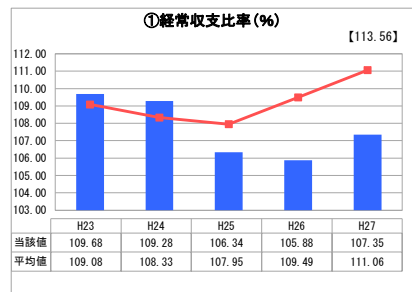
神奈川県 山北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A7
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	81.76	98.41	1,479

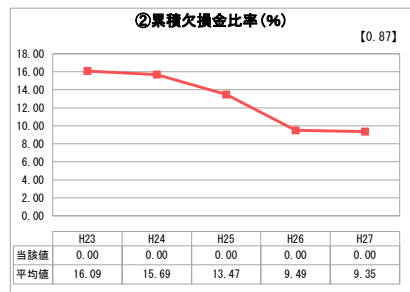
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,124	224.61	49.53
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,836	8.15	1,329.57

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

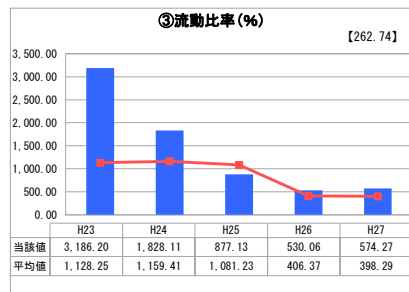
1. 経営の健全性・効率性



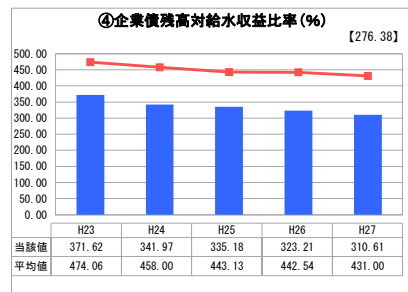
「経常損益」



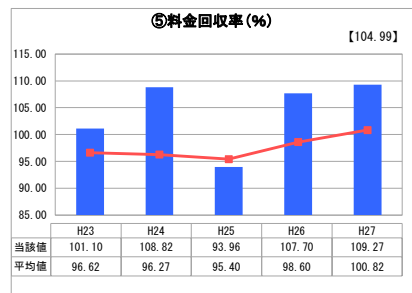
「累積欠損」



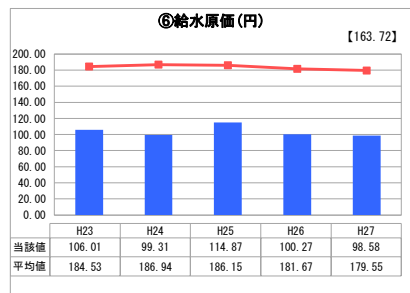
「支払能力」



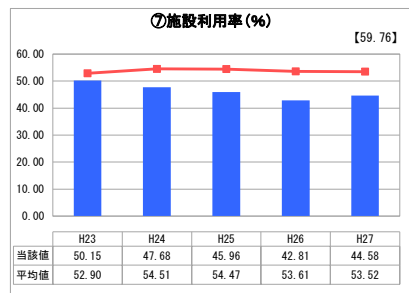
「債務残高」



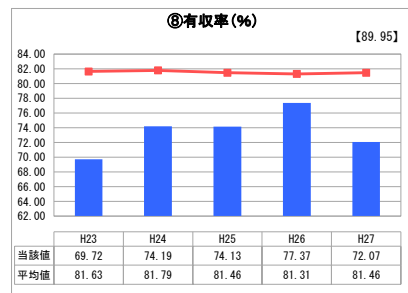
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

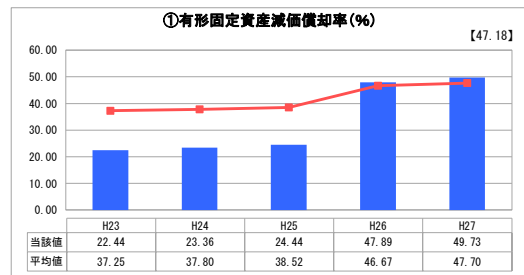


「施設の効率性」

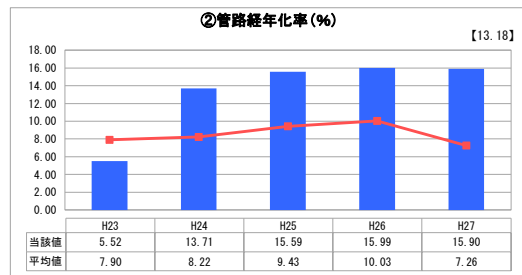


「供給した配水量の効率性」

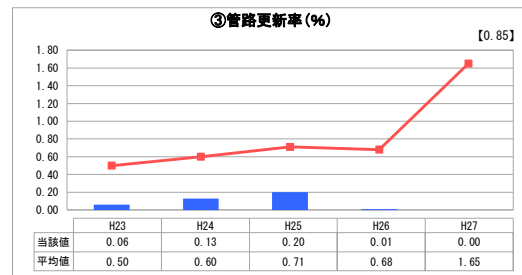
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損金比率0%、流動比率100%以上であり、企業債残高対給水収益比率も類似団体内で低い水準、料金回収率は100%を超える水準となっており、現時点の指標で分析すると比較的健全な経営といえます。

しかしながら、企業債残高対給水収益比率、管路経年化率、管路更新率を類似団体と比較して総合的にみると、管路更新の遅れによる企業債の残高が少額になっている傾向にあると思われます。

また、決算状況を経年比較すると、給水収益の減少傾向、維持管理費の増加傾向、現金の減少傾向が見られることから、近い将来厳しい経営状況に推移していくことが予想されます。

施設利用率が低いのは、当町は居住地域が広範囲にあり、人口の割合からすると給水施設が多く必要になるため利用率が低くなってしまいます。平成24年度以降徐々に下がりが続いているので、今後も動向に注意してまいります。

なお、類似団体と比較して有収率が低いのは、本町の立地条件から高低差のある山間部を配水管がはしり、なかなか漏水場所の特定が難しく、修繕につながらないためであり、今後計画的に布設替え等検討していく必要があると思われます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率が類似団体内で高い水準になっている一方、管路更新率が著しく低くなっています。これは当町が下水道工事に併せて平成元年から平成15年度頃まで集中して管路更新を行い、現在は工事規模が縮小している状況であることが原因と思われます。

今後施設の老朽化もますます進み、経年化率がさらに高くなると考えられます。平均的に工事を行っていくためにも、今後優先順位をつけ投資計画を見直す必要があります。

全体総括

平成12年に料金改定を行って以来、努力を重ねてまいりましたが、近い将来厳しい経営状態に推移することが見込まれますので、現在料金改定等につき審議会にて検討中です。また、下水道工事に併せて一定時期に集中して布設替えを行っているため、この先同様に管の更新時期が重なってまいります。さらに施設の老朽化も進みますので、全体的に費用がかかることが見込まれます。今後全体的に更新計画を考え水道事業の運営を行ってまいります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。